

様式第7号（第21条関係）

番 号  
令和5年6月23日

佐賀県県民協働課長 様

住所 佐賀市松原1-3-5まるなかビル6階

団体名 公益社団法人 Civic Force

代表者職・氏名 代表理事 根木 佳織

電話番号 0952-20-2900

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和4年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

-

令和4年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団体名 : 公益社団法人Civic Force
- 2 事業実施期間 : 令和4年4月1日 から 令和5年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

平時から防災に対する意識が高く、行政とコミュニティが互いに信頼し繋がっていることで、大規模災害時に行政と民間の協働により迅速でかつ効果的な自助・共助・公助が実現できている社会。

- 4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

平時から行政や企業、NPOなどと連携体制（プラットフォーム）を整えていたことで佐賀県民に下記のような便益につながった。

**1. 緊急支援**

以下の緊急支援を実施することで被災者支援を行った。  
・2022年8月、新型コロナウイルスの第7波対策として佐賀市内の医療機関にトレーラー2台を無償貸与し、ドライブスルー等で発熱患者の検査などを行うスタッフの待機場所として活用され感染拡大防止に寄与した。

・NPOガラバゴス（武雄市）が被災後の仮活動拠点から、被災前と同等以上の機能をもった事業所へと移転・整備することで、障がいをもつ子どもたちの居場所づくり、彼らとその家族が安心して生活できる地域づくりを支援した。（2022/1/17-2022/7/31 障がいをもつ子供たちのための放課後等デイサービス事業所整備事業）

・佐賀市内の倉庫に備蓄している緊急支援物資を県内の貧困家庭への生活支援として日用品（シャンプー、生理用品、オムツ、衣料品等）の無償配布し生活維持を支援した。

※配布回 2回実施、参加団体延べ数 12団体、裨益者のべ数 600人。

**2. 防災教育**

以下の活動により県民の防災意識や知識の向上に貢献した。

・2022年5月、武雄市で開催された「2022防災フェスタ・治水シンポジウムin武雄」にブースを開設し、災害時の連携支援の形や防災グッズを展示した。

・2022年6月、嬉野市立吉田中学校の1年～3年生の生徒に対しARROWS隊員が講話及びロープやドローンを使用した体験型の防災授業を実施した。（生徒51人）

・2022年8月、令和元年と令和3年の佐賀豪雨に被災した大町町で開催された職員と町民が参加した避難所体験会に協力、参画した。

Civic Force（シビックフォース）と佐賀県オールトヨタは、災害時の給電機能付きのクルマの活用方法を紹介。車の電気が湯沸かしポットや携帯電話の充電に使えることを実際に体感された。

・2022年8月、鳥栖市のアマゾンジャパンの物流センターで災害時支援をテーマに合同研修会を行った。

・2022年11月、佐賀市のおへそ子ども園においてクイズなどを用いた防災の話をした。

・2022年11月、佐賀青年会議所主催の「さが防災運動会2022」に参加した。

・2022年11月、佐賀空港の「空の日フェスタ」に参加し、災害時の備蓄の呼びかけ等を行った。

・2023年3月、佐賀市に於いて「関東大震災から100年 これからの避難生活のあり方を考える。被災者支援の国際基準と行政・企業・NPOの協働」をテーマにシンポジウムを開催した。参加者は60人、オンライン70人であった。

**3. GoodLinksの活用**

災害時の迅速な支援物資の受け渡し当事者間で直接できるアプリ（GoodLinks）をトヨタ財団の助成金を活用して開発したことで継続的な支援の方法が増えた。2023年6月現在の登録数は、企業が7社、支援団体は33団体で、内県内は企業が5社、支援団体は15団体である。R5年度では県内の団体が上記緊急支援としての物資を受取り生活困難者に直接配布した。

※他（ふるさと納税寄附金の活用以外）

・「SAGA Ukeire Network～ウクライナひまわりプロジェクト～」

佐賀県、佐賀市及び佐賀を拠点に活動するNPOなどが官民連携でウクライナ避難民を受け入れるため、2022年3月に発足したプロジェクトにも参画している。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

Civic Forceは国内、海外のネットワークを活かし、下記の支援を実施した。

**1. ARROWS事業（姉妹団体Peace Winds Japanとの災害時の医療支援）**

- ・佐賀の倉庫にてARROWS活動用のパーティション（避難所等で使用する仕切り）やマスク、感染症対策品等の国内外の災害時支援物資を保管・管理。
- ・佐賀で実施をしていた防災イベントをモデルに2022年5月、福岡県にて防災イベントを開催。ARROWS隊員が災害時に使えるロープワークなどを子どもたちに教えた。

**2. アジアにおける展開**

APAD(\*)の日本を代表する災害支援団体として、A-PADのメンバー国を通じてアジア太平洋地域で発生する災害対応に協力する準備ができています。APADのメンバー国（インドネシア、バングラデシュ、フィリピン、スリランカ、韓国、日本）が参集した設立10周年フォーラムにおいて日本を代表して参加し、CivicForceが支援の拠点を東京と佐賀におき、災害時の相互の協力体制が確認された。

\*A-PAD (Asia Pasific Alliance for Disaster Management)はアジア太平洋地域の災害時プラットフォーム。

5 寄附金活用事業実績 : (別記1)

6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)

7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記1) 寄附金活用事業実績

○寄附金を活用して行った事業 (GCFを行った場合は、GCF名とその内容を記載)

事業名	具体的な事業内容 ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所	事業費の 支出金額 [単位:円]	うち寄附金 活用額 [単位:円]
①緊急即応体制をつくる	<p>①大規模災害発災直後に緊急支援ができる体制を平時より整えておく</p> <p>②被災者</p> <p>③以下の通り</p> <p>○行政や企業との防災協定 ○防災イベントやセミナーによる防災意識の啓発活動 ○災害支援のマルチアクターの調査やヒアリング。</p> <p>○ARROWS (空飛ぶ捜索医療団) 事業 ※大規模災害の被災地にいち早く駆けつけ、救助・救命活動を行う、医療を軸とした災害緊急支援。航空機やヘリコプター、船などの輸送手段を活かし、医師や看護師、レスキュー隊員、災害救助犬などの救助チームが被災地に赴き、自治体・病院・NPO・企業・自衛隊・消防なども連携を図り、発災直後の救助・救命活動から物資配布や避難所運営、中長期的な復興のサポートまで必要な支援を最適な形で届ける事業。ARROWSはAirborne Rescue &amp; Relief Operations with Searchの略。</p>	<p>①通年</p> <p>②日本、アジア太平洋地域</p>	16,000,000	1,467,447
②被災地を支援する	<p>①被災者支援</p> <p>②被災者</p> <p>③下記の通り</p> <p>○大規模災害時の緊急支援 ・2022.8 新潟水害時の給水袋500枚配布、電動運搬車2台の無償貸与)</p> <p>・2022.9 台風14, 15号発生時、Amazon欲しいものリストを通じて支援物資を募集、GoodLinksで静岡県への支援物資や需要を募集。</p> <p>・コロナ支援 (医療機関へのトリアージのためのトレーラー貸与)</p> <p>○SEMA (緊急災害対応アライアンス) を含む企業と連携した緊急物資の支援</p> <p>○支援物資の備蓄</p>	<p>①通年</p> <p>②日本、アジア太平洋地域</p>	96,000,000	8,862,290
GCF「被災地にいち早く医療と支援を届ける！「空飛ぶ捜索医療団」の活動を応援してください」	<p>①被災者支援</p> <p>②被災者</p> <p>③下記の通り</p> <p>○支援物資の調達・輸送・配布</p> <p>○支援団体とのパートナー事業</p> <p>○災害時に必要な支援物資の管理や調達</p> <p>○平時の訓練や防災活動</p>	<p>①通年</p> <p>②日本、アジア太平洋地域</p>	1,775,700	1,561,882
計			113,775,700	11,891,618

(別記2) 次年度繰越活用見込み

○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位：円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位：円]
計			0	0

(別記3) 寄附金活用額

<b>【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)</b>		<b>17,248,671</b>
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	17,248,671
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	15,879,200
	前年度控除額(県事務経費)還付分	1,369,471
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	0

<b>【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)</b>		<b>17,248,671</b>
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	11,891,618
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	5,357,053
	返礼品等の調達に係る費用	5,229,040
	返礼品等の送付に係る費用	0
	広報に係る費用	0
	事務に係る費用	128,013

<b>佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)</b>	<b>0</b>
-------------------------------------	----------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

※2022年度(令和4年度)財務諸表(2021年9月1日~2022年8月31日)

[https://www.civic-force.org/data/media/civic\\_force/page/about/2022\\_zaimu.pdf](https://www.civic-force.org/data/media/civic_force/page/about/2022_zaimu.pdf)